

現代アート

- ◆ 一般社団法人TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY
- ◆ 独立行政法人国立美術館

目的・
目標

「写真」は文化交流のツールとして最適なもののひとつであり、グローバルなネットワークを構築し、経済、人、情報の循環を生み、有益な情報、人材、資本をもたらすことができる。本プロジェクトは「写真」分野のクリエイターを育成することによって、これらの可能性を最大限に引き出し、日本の経済活性化と文化促進を図ることを目的とする。

概要

国際写真祭（展示）とアートフェア（マーケットプレイス）を同時に開催する環境を最大限に活用し、そこに集まる人材、あるいは展示や発表の機会を用い、次世代を担う作家、批評家、キュレーターを育成する。

- ①国際的に活躍する審査員によって優れた作家を選出し発表機会を提供。
- ②そうした作家の作品をコーディネートし国内外で展示を行えるコーディネーターを育成。
- ③そうしたフェスティバルでの展示機会に合わせて批評や評論を執筆し国内外に向けて発表する機会を生み出す。上記を通じて次世代の育成へとつなげていく。

（分野・ジャンル）

・現代アート / 写真

（渡航先の国・地域）

・パリ / アルル（フランス）、ほか

（国内外の連携・協力体制）

・美術館、図書館、大学、フォトフェスティバル、アートフェアとの連携

3年目までの取組

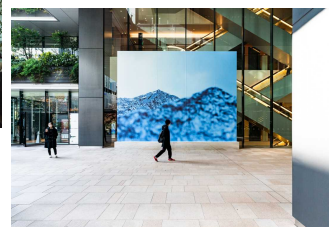
「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」（展示）と「T3 PHOTO ASIA」（フォトフェア）というプラットフォームを活用し、国外の美術館キュレーターや批評家等を招聘し、育成対象アーティストやキュレーター、批評家との交流や展示・批評の実践の場を実現する。また、海外のアートフェア/フェスティバルと連携し、育成対象者の活躍の場を海外へと展開。それらの活動を書籍およびウェブサイトにてアーカイブし、広くその知識を共有する。

海外招聘ゲスト

サンドラ・フィリップス サンフランシスコ近代美術館
アン・モース ボストン美術館
アン・ハヴィンガ ボストン美術館
ダンカン・ワールドリッジ 批評家/キュレーター
エリン・オトゥール サンフランシスコ近代美術館
マーク・フーステル キュレーター
サム・バーズレイ Photovilleディレクター
ダイアン・デュフル LE BAL
キム・ジョンウン IANN BOOKS
キム・ジヘイ アリゾナ大学研究者 他

5年目までの取組

3年目までの活動によって築いたネットワークなどを活用し、海外の大学/美術館等と連携して写真/批評に関するレクチャーやシンポジウムを展開する。また、海外の美術館において、育成対象キュレーターと海外キュレーターによる共同企画展を実現し、日本の「写真」を軸とした文化活動をグローバルに展開するモデルケースを創り出すことを目標とする。



中核となるクリエイターやアドバイザー

全体統括責任者：速水惟広（T3 ファウンダー）
アーティスト育成：太田睦子（編集者）
キュレーター・コーディネーター育成：菅沼比呂志（キュレーター / 大学教授）
批評家育成：千葉由美子（ギャラリスト）

育成対象者：12人

- ・アーティスト5人
新進・中堅作家を対象（推薦・一部公募）
- ・キュレーター/コーディネーター2人
主要美術館学芸員やインデペンデントキュレーターからの推薦
- ・批評家5人
先行2名選出後、追加3名

成果目標（見込）

目標値

企画段階から海外公演等々に登用される若手クリエイター等の数	12人
国内外の団体・企業等との連携数（連携団体数、事業提携数、拠点形成数など）	75件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	40人
国内外で展開される公演・展示等の数	7回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	235,000人

4つのキーとなる活動



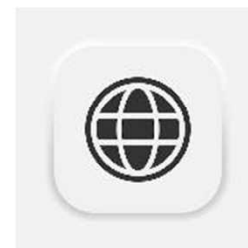
①国内外のキュレーター、批評家によるネットワーク構築、情報共有、日本写真の理解促進を目的としたレクチャー、シンポジウム



②海外美術館での展示をゴールとした国内外の写真祭、フォトフェアにおける展示



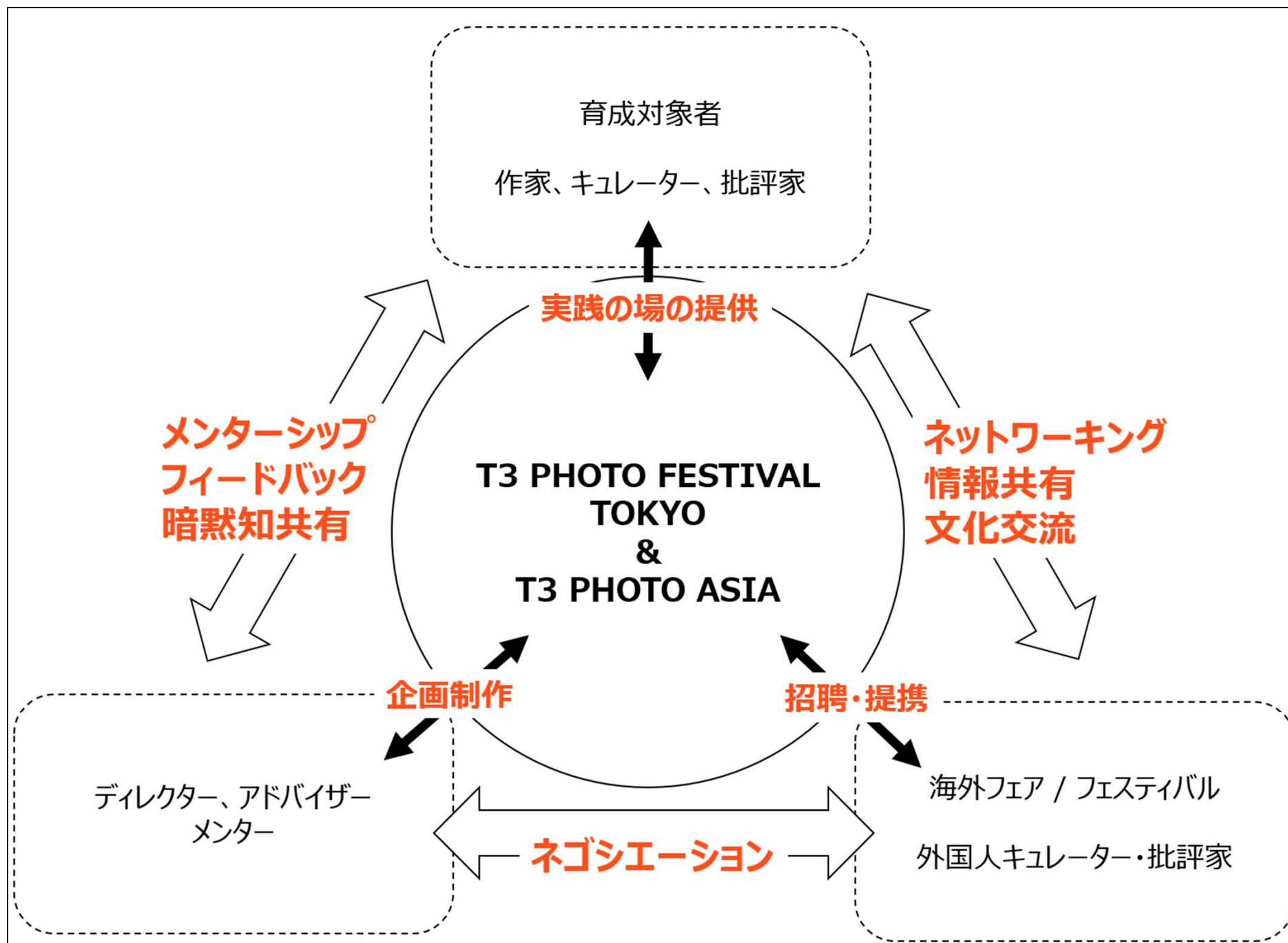
③対象作家の作品および批評家によるテキストを国内外のキーパーソンへと届けるためのバイリンガル作品集・批評集の出版



④左記の活動を記録し誰もがアクセス可能なものとするウェブアーカイブ事業

上記の4つの活動を、東京で開催される国際写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」、そして新たなアートフォトフェア「T3 PHOTO ASIA」を軸に展開します。国際的なアートイベントとフォトフェアが活動の舞台となることで、海外のフォトフェスティバル、フォトフェア、美術館、ギャラリーとの連携を実現し、本プログラムを通じて、世界で活躍するアーティスト、キュレーター、批評家が生まれる環境を創り出します。

【補足資料2】



目的・目標

現代アートの作品や展覧会制作に携わる若手人材の育成および国際的なネットワーク構築による日本の現代アートの振興を目的とし、アーティストとキュレーターが海外の美術関係者と協働して作品制作から展示を行うことで、国際的に活躍しうる人材を輩出するとともに、本プログラムで構築されるネットワークが長期にわたり活用され、次代を担う人材が海外で活発に活動する契機の創出を目標とする。

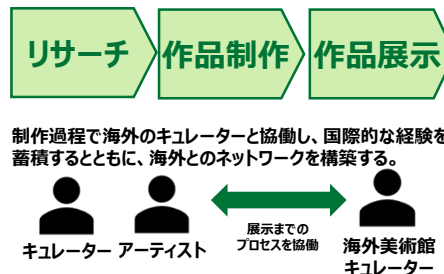
概要

若手のアーティスト・キュレーターを海外に派遣し、リサーチベースの作品制作を経て現地の美術館で作品展示を行い、海外での展示終了後に国内でも作品の公開を行う。作品制作・展示に加えて、本プログラムで得たノウハウ・成果を広く共有するため、オンラインを中心とした情報発信を継続して行うとともに、育成対象者以外のアーティストやキュレーター、コーディネーター等の人材が国際的なプロジェクト実施の際に参照できる記録集を制作する。

3年目までの取組

アーティスト1名(組)とキュレーター1名を1グループとした合計3グループを海外3か所に派遣。キュレーターは国内の美術館から募り、派遣先の美術館関係者と協働してアーティストの選定やキュレーションを行う。アーティストは派遣先地域でのリサーチに基づいた作品を制作し、現地美術館で作品を展示する。これらのプロセスを定期的に発信しながら、アーティスト・キュレーターの業務のみならず、コーディネーションや広報活動も含めた国際的な協働プロジェクト推進のノウハウや過程をおさめた記録集を制作する。

派遣先地域での制作プロセス



5年目までの取組



育成対象キュレーターとアーティストが中心となり、3年目までの成果を国内で広く共有・発信

海外で制作・展示した作品を日本で公開する。日本での展示計画は3年目までに得た知見や経験を活かしながら、育成対象のアーティストとキュレーターが中心となって行う。作品の公開に加え、記録集の内容を広く普及するための情報発信活動と、5年間の活動を総括・共有する場として、育成対象者を含めた関係者によるトークイベント等の活動報告会を開催する。

中核となるクリエイターやアドバイザー

片岡 真実 (国立アートリサーチセンター センター長)

山峰 潤也 (キュレーター/プロデューサー)

Michael Brand (Art Gallery of New South Wales 館長)

Benjamin Weil (Centro de Arte Moderna Gulbenkian 館長)

Clara Kim (Museum of Contemporary Art LA

チーフキュレーター・キュレトリアル部門ディレクター, CIMAM理事)



片岡 真実
撮影:伊藤彰紀

育成対象者: 6人(予定)

アーティスト: 3名(組)

キュレーター: 3名

育成対象キュレーターを公募にて選出し、選出されたキュレーターと海外の美術館のキュレーターが協働して育成対象アーティストを選定する。

(分野・ジャンル)

・現代アート

(渡航先の国・地域)(国内外の連携・協力体制)

2025~2026年に以下の地域に渡航し、各美術館の協力を得て作品制作や展示を行う。

・シドニー(オーストラリア)

Art Gallery of New South Wales

・リスボン(ポルトガル)

Centro de Arte Moderna Gulbenkian

・ロサンゼルス(アメリカ合衆国)

Museum of Contemporary Art

育成対象キュレーターが所属する美術館をはじめ、国内の美術館とも連携し、国内外における美術関係者のネットワークを構築する。

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等に登用される若手クリエイター等の数	6人
国内外の団体・企業等との連携数(連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	10件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	20人
国内外で展開される公演・展示等の数	5回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	1,500人

育成対象者
(アーティスト、
キュレーター)

キュレトリアルな観点で
作品制作に関する助言

リサーチや作品制作の
コーディネーション

アドバイザー
(海外美術館関係者、
国内の有識者等)

情報発信やプロ
ジェクト全体に関
する助言・支援

運営事務局
(国立アートリサーチ
センター内)